



年長さんとしての自覚

教師としての指導力を高める研修の一環として、年長の各クラスで、「子どもたちによる話し合い活動」が公開されました。年少から年長になるまでの間に、幼稚園でいろいろな形でお世話になったこと、世話してくれた人を想起させ、今度は、幼稚園のみんなのために、自分たちでできることを話し合い、実践していこうという趣旨の研究保育です。

研究保育となれば、関係職員が参観し、放課後、協議会を行います。目的は、その日の課題を明らかにし、次への指導に生かすことです。担任は、いつもより緊張して保育をしています。参観する私たちも真剣です。子どもたちは、私たちが保育室にいる理由が分からないので、「〇〇先生！、△△先生！」と声を掛けてきます。

中には、じゃれたりしてくる子どももいます。声を掛けられた職員は、保育指導中でもあることから、何と応えてよいか分からず、「先生の話聞いてごらん」と子どもの動きを静止するのが精一杯です。

先ほどの年長さんの研究保育では、グループ内で自分の考えが発表できるように、給食時間に座る仲のよい友達同士でグループを作る工夫がされていました。先生の問いかけに、子どもたちは、経験したことをもとに、身近にできることを出していました。

「怪我している人がいたら、保健室に連れて行く。」

「おもちゃ(カプラ)の後片付けをする。」

「給食を箱に入れて、給食室へ運ぶ。」

「泣いている子がいたら、助ける。」

「転んだ子を、補助の先生の所へ連れて行く。」

「大丈夫？と、声を掛ける。」

など、各グループで、年長さんができる精一杯の内容が出されていました。そして、一人の子が発言したら必ず「それいいねえ」「それいいねえ」と同意した言葉が聞かれ、年長さんらしい話し合いでした。先生としては、クラスの全員が力を合わせて幼稚園のためにできるような保育室や園庭の掃除、当番活動的な内容を考えていたようです。しかし、子どもたちは経験の範囲内でしか考えることができませんから、身近な事柄を問題にしていたようです。先生との考えにズレが生じていましたから、先生は、軌道修正をするために、幾つか質問をして、何とか学級の意見としてまとめることができましたようです。

年長さんは、自分達でできることを自分の言葉で、きちんと発表している姿を見ると、なかなかやるもんだなあと思いました。小学校の学級活動で話し合いの仕方を学びますが、本園の年長さんは、十分にその力を持っているように見え、頼もしく思いました。子どもたちが、確実に、逞しく成長していくのが分かります。

給食のカレーって、美味しいねえ

10日(金)に、年少さんの給食参観がありましたが、生憎、この日は午前中に学園で会議があったために、その様子を見学することができませんでした。

17日(金)には、年中の親子でカレー給食を食べるという給食参観がありました。幼稚園児を対象としたカレーですから、業者さんは、結構、甘めのカレーを提供されます。大人の私たちは、通常、甘口やパーモントカレーよりも、辛口を好みますが、給食のカレーは甘めでも、結構美味しくいただくことができます。この日のカレーは、子どもたちだけではなく、お母さま方にも好評で、どのお母さま方からも「美味しい、美味しい」といって、食べていただきました。こうしてみると、日本のカレーは、どんな味でも、日本人の口に合うものだなと思いました。

すもも組は遊戯室で、びわ組は教室で給食参観をしました。グループごとに、親子で、そしてお母さま方同士仲良く、話に花を咲かせて、楽しいひと時を過ごしていただきました。お母さま方の中から、本日のレシピを知りたいという声も聞かれ、担当職員が、業者に確認の電話をしたということでした。

給食で提供されるメニューを、ご家庭でも、レシピを元に再現されるということはとても嬉しいことです。ある意味、給食参観が成功だったようにも思います。



幼稚園のすもも大収穫

百年の森や園庭の「すもも」が今年は、鈴なりになりました。今年度、年中の新学級名を「びわ」「すもも」と名付けただけに意味あることでした。中学・高校の美術の先生が、すももの赤紫の色を出すのが難しいと言われましたが、本当に、赤紫のいい色に熟していました。青沼先生が、脚立に乗って、一つ一つを大事に取っていると、年中の子どもたちが寄ってきて、お手伝いをしてくれました。びわと違って、子どもたちのすぐそばに赤く実っているので、子どもたちも大喜びで手伝いをしました。収穫した数に限りがありましたので、今年は、年中の2クラスに配りましたが、とても甘くて美味しいと喜んでいました。

